

データ・サイエンスを学ぶ学部や学科が次々と誕生しています。それだけではなく、どんな学部にも所属しようと、データ・サイエンスを何らかの形で学ぶように、大学のカリキュラムも変えられつつあります。AIの発展などにより、これまで私たちが行ってきたことがAIに置き換えられ、私たちに求められる能力に大きな変化が訪れているようです。一言で述べるなら、「事務処理能力」から「問題解決能力」へとと言えるでしょうか。問題解決のためには、現状の正確な把握と予測のために、的確なデータ分析が必要になることは言を俟ちません。そうすると、社会統計学は、そうした能力を向上させるためにも、よい訓練になることと思われまふ。

ところで、データ・サイエンスにおいては、無論、統計学が最も重要な位置を占めることに間違いありません。したがって、これから統計学を学ぶことはますます重要で、文系・理系を問わず、統計学の知識は必須のものになると言えるでしょう。とはいえ、「数学嫌い」が減ったとも思えません。よく知られていますように、日本人の数学の学力は決して低いわけではありません。むしろ、世界の多くの国々の中で、いまなおトップクラスにあります。そうではあっても、やはり数学が嫌いという人はかなり多くおり、数学への苦手意識から、統計学もなんとなく敬遠している人が多く見られるのが実情でしょう。さらには「統計学嫌い」を拗らせてしまっているかもしれません。

ぜひとも、そうした人たちに本書が届くことを願っています。本書が数学嫌いを抱えつつも、統計学に近づく第1歩としてお役に立てるとするならば、そしてこれからの社会に適応できる能力を身につけてもらえるとするならば、著者たちにとって望外の喜びです。

2022年10月

編者

【追記】

法律文化社のホームページに模範解答を掲載している（法律文化社トップ画面→教科書関連情報→教科書連動ページ『数学嫌いのための社会統計学[第3版]』<https://www.hou-bun.com/01main/〇〇〇〇>）。また、ホームページではあわせて、本書中で説明しきれなかった内容を「プラスあるふぁ」として掲載している。ぜひ読んでもらいたい。